

ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学保育学科 / 子ども学科

講師 福泉 博子

1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として保育士資格、幼稚園教諭2種免許状取得における音楽・ピアノにおける分野の教科を担当している。2019・2020年度の担当

科目は(表1)の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
音楽	2019	通年	1年生	演習	24名	3クラス 前期
					23名	
	2020	通年	1年生	演習	23名	後期 教員5名
					25名	
24名						
ピアノB	2019	前期	2年生	演習	23名	3クラス 教員4名
					24名	
					24名	
音楽表現の探究	2019	後期	1年生	演習	35名	2クラス 教員1名
					35名	
	2020	後期	1年生	演習	36名	
					35名	
子ども文化演習C	2019	後期	2年生	演習	71名	教員3名
子ども文化演習B	2020	後期	2年生	演習	70名	教員3名
総合演習	2019	通年	2年生	演習	71名	教員4名
スキルアップ セミナー	2019	通年	2年生	演習	71名	教員4名

(表1) 2019・2020年度 担当科目詳細一覧

2. 教育の理念

私が音楽教育に携わってきた中で、保育者を目指す学生たちに対して心がけていることは、音楽の基本や原点を丁寧に指導するとともに、感じる心や想像力を養う授業を行うことである。そして、子どもたちと一緒に音楽活動を楽しむことができる人材を育成することである。保育者を目指す学生の中には、ピアノ未経験者や初心者が非常に多く、基本的な知識も皆無である。音楽理論やピアノ奏法などの技術を学ぶことは大変困難ではあるが、2年間という短い時間の中で保育者として自信をもって音楽活動に取り組みよう、次にあげる5つの項目を学生に習得してほしい。そして、想像力を豊かにし、広い視野と柔軟な心や発想で子どもたちを導き、保護者や地域と関わってほしいと考えている。

楽譜を読む力（読譜力）

演奏する力（ピアノなどの鍵盤楽器・こども達が扱う楽器）

歌唱力（正しい発声ができる。適度な声量でこどもと一緒に楽しみながら歌える）
感じる力（自然や生活の中で五感を使って感じる）

表現する力（声や体、楽器はもちろん様々な手法を使った音の表現）

3. 教育の方法

担当している教科は演習科目で、ひとりで担当する科目もあれば、複数で担当する科目もある。ここでは、専門分野の「音楽」「ピアノB」「音楽表現の探究」の3科目についての教育の方法を示す。

（1）音楽（通年）

【授業の概要】

保育士資格必修の本科目は保育者として必要となる音楽の基礎的な知識、技能の理解と習得を目指す。そのため、楽典や歌唱法、ソルフェージュに関する授業を前期に、ピアノや弾き歌いなどの個人レッスンを後期の授業で実施し、音楽全般について総合的に学習します。また、本学の自然環境を生かした音遊びの中で五感と想像力を養う。

【ねらい】

1) 幼稚園や保育所などで歌う「こども・幼児のうた」の特性を学び、ピアノで弾

き歌いをしながら幼児の指導ができる力を身につける。

2) 自然や生活の中にある音を感じ、声や身体、楽器、身近にあるものを使って音

楽を奏でる方法を習得する。また、それらの方法を用いて、こどもの発達に合

わせた活動が出来るようにする。

【内容と到達目標】

前期授業

こどものうたの特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながらこどもと関わる。

音楽の知識を身につけ、一人で読譜ができるようにする。

自然や生活の中で音を感じとり、色や形、オノマトペなどでの表現をする。

手作り楽器の制作と遊び。

前期は2名の教員で授業を行う。では音楽(ピアノ)未経験・初級者クラスと経験者クラスの2グループに分けグループレッスンや個別指導で学生一人一人が理解できるよう心掛けた。また、ではグループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と人とのかかわりを学べるようにした。

後期授業

初級者は、ピアノ・弾き歌い進度表(山村短大オリジナル)の応用までの習得。

中級者は、ソナチネアルバムやブルグミュラーの習得。

上級者は、ソナタアルバムや同レベルのピアノ曲の習得。

生活のうた、季節のうたなどを通して、こどもの心に伝わる歌い方ができる。

後期では5名の教員でピアノレッスン(個人レッスン)を毎週行う。学生一人一人に対するレッスンは18~20分。その他の時間は個人練習時間とし、課題練習の時間にあてた。ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個々にあった指導を心掛けている。

(2) ピアノB(2年生・前期)

【授業の概要】

この授業は「音楽」「ピアノA」における習得成果を踏まえ、保育現場で必要とさ

れる鍵盤楽器(ピアノ)の奏法や弾き歌い、和音やコードを使った伴奏付けなどに必要な技能を学ぶ。

【ねらい】

音楽的な資質・能力を高め、実際に保育現場から求められる要求に応えられる専門性を身につけることができる。習熟度の低い学生は、読譜力と演奏技術の向上を目指す。

【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、4名の教員でピアノレッスン(個人レッスン)を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15分程度。現場でのピアノを使った活動に困らないように、読譜力向上に力を入れた。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。

習熟度の低い学生はバイエル100番程度の難易度の曲が演奏できる。弾き歌いでは和音や分散和音を用いたこどもの歌が弾きこなせるようになる。

中上級者はブルグミュラー、ソナチネ、ソナタや、それらと同等のピアノ曲を演奏することができる。また、コードや伴奏法を用い、童謡などに伴奏がつけ

られるようにする。以上の3点を到達目標とした。

(3) 音楽表現の探究

【授業の概要】

保育士資格選択必修、幼稚園教諭2種免許状必修〔大学が独自に設定する科目〕

この教科は、幼児の感性や創造性を育む方法や構成を実践的に学び、幼児期の

表現活動を支援するための知識・技能・表現力の習得を目的とする。また、発表

会やクリスマス会などのステージ発表を通し、準備工程や他者との協働の大切

さを学ぶ。

【ねらい】

音楽遊びを通して幼児の音楽的感覚を育てる方法を学ぶ。

合唱や合奏活動を通じて歌唱法や幼児が使う各種楽器の奏法を学び、保育者に必

要とされる指導技術を身につける。

発表会やクリスマス会の準備を通して園行事(音楽会)の流れを習得する。

【内容と到達目標】

演習形式で行います。前半は「音楽遊び・音楽づくり」「合唱・合奏」の授業を45分ずつ実施。後半はクリスマス会に向けての合唱、少人数でのアンサンブルや

グループ練習を行います。発表会、クリスマス会の練習は学生リーダーを中心に学生主体で授業を展開していきます。到達目標は、次の～とする。

表現が目指すもの、もたらすものを学び、音楽の力が幼児に与える影響を理解、分析することができる。

表現する楽しさを実感し、合唱や合奏を通してハーモニーの重なりや美しさを楽しむことができる。

歌詞や旋律が意図することを理解し、より幅広い表現ができるようにする。

協働して表現をしていく事を通し、他者と共感しながら豊かな表現につなげていくことができるようにする。

表現の知識技能を活かし、幼児の表現活動に展開させることができるようにする。

4. 教育の成果、評価

2019年度の前期・後期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。

(表2 1~4)各設問の内容は次の通りである。

問1：学生自身の取り組みについて

問2：授業の内容について

問3：授業の進め方について

問4：全体的評価

2019年度の前期授業アンケートの結果一覧(5点満点)

	音楽 前期	ピアノB	総合演習 前期	SUS 前期
--	----------	------	------------	-----------

問 1	Aグループ 4.47 Bグループ 4.46 Cグループ 4.59	Aグループ 4.17 Bグループ 3.97 Cグループ 4.29	3.72	3.74
問 2	Aグループ 4.56 Bグループ 4.56 Cグループ 4.56	Aグループ 4.06 Bグループ 4.13 Cグループ 4.36	3.80	3.75
問 3	Aグループ 4.86 Bグループ 4.89 Cグループ 4.83	Aグループ 4.16 Bグループ 4.31 Cグループ 4.58	3.85	3.81
問 4	Aグループ 4.38 Bグループ 4.78 Cグループ 4.59	Aグループ 4.18 Bグループ 4.27 Cグループ 4.52	3.82	3.82

(表 2 - 1)

2019年度の後期授業アンケートの結果一覧(5点満点)

	音楽 後期	音楽表現の 探究	こども文化 演習C	総合演習 後期	SUS 後期
問 1	Aグループ 4.56 Bグループ 4.51 Cグループ 4.40	1・2組 4.63 3・4組 4.65	4.25	4.00	4.11
問 2	Aグループ 4.82 Bグループ 4.60 Cグループ 4.57	1・2組 4.77 3・4組 4.77	4.15	4.01	4.11
問 3	Aグループ 4.92 Bグループ 4.69 Cグループ 4.74	1・2組 4.87 3・4組 4.64	4.28	4.17	4.25
問 4	Aグループ 4.82 Bグループ 4.70 Cグループ 4.73	1・2組 4.84 3・4組 4.47	4.20	4.08	4.20

(表 2 - 2)

自由記述

<p>音楽前期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノを弾いたり歌ったり楽しかった ・子どもの歌や歌える歌が増えてよかった ・すごく楽しかった。 ・質問がしやすくとても楽しい授業だった。 ・でんでんだいこを作ったのが楽しかった。 ・オカリナで「かっこう」を吹けてよかった。 ・ストロー笛製作が楽しかった。 ・記号や音符など詳しく説明されてよかった。 ・自分たちのペースや出来具合に合わせて授業を行ってくれたので、とても授業が受けやすかった。 ・座学だけではなく、身近なものの楽器作りやオカリナを吹いたり、歌を歌ったりと楽しい授業だった。わからないところもわかるまで丁寧に教えてくれたので良かった。 ・わかりやすく理解が深まった。 ・楽典、でんでん太鼓、オカリナ、歌、ピアノなどすべてにおいてバランスが良かった。保育で使えると思った。 ・すべて電子ピアノにしてほしい ・ヘッドホンが足りない。大きなピアノで授業がしたい。
<p>音楽後期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノは苦手だが先生方の指導で上達した。 ・指導が正確で弾けるようになった。 ・分からないところを分かりやすくじっくりと指導してくれた。 ・曲想や強弱などの提案をしてくれて、音楽への関心が深まった。 ・改善点や自分に合う曲を教えてくれて、がんばろうと思った。 ・1曲にかける時間がもう少し欲しかった。 ・電子ピアノを増やしてほしい。 ・ピアノの調律など、メンテナンスをもう少ししっかりしてほしい。

(表2 - 3)

<p>ピ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲本体に自分が入り込むようになど、ピアノに向き合って引くようなスタイル、感情移入できて楽しくレッスンすることができました。 ・個人の技量やペースに合わせてレッスンしていただけて助かりました。 ・自分のレベルに合わせて弾き歌いを選んでくれた。弾き方を編曲して簡
----------	--

<p>ア ノ B</p>	<p>単にしてくれた ・「できなくても大丈夫」と声をかけてくれたので安心してピアノが弾けた。 ・後期でも授業があるとよい。 ・実習分の授業がなく、回数が少なかった。授業回数を増やしてほしい。 ・レッスン時間にばらつきがあった。</p>
<p>音 楽 表 現</p>	<p>・歌が楽しかった ・実践しながら、どうしたら子供たちに伝わるかを教えてもらい。学びが深まった。 ・こどもに音楽を教える難しさを実感しました。 ・こども達が自分らしく音楽を楽しめるようなかわり方を考えていきたい。</p>

(表2 - 4)

(1) 音楽

音楽(前期)に関して、学生からの全体的評価の3グループの平均値は「4.58」だった。昨年度は「4.35」との結果だったため「0.23」上昇した。他の設問においても上昇傾向にあった。授業内容において前年度との大きな違いは、楽典などの座学内容を「音名」「リズム」「拍子」に重点を置き読譜力向上に特化したこと。また、音遊びを新たに加え、自然の中で音探しをしたり、様々な手法を使って表現したり、身近なもので手作り楽器を製作したりと、後期の「音楽表現の探究」の授業につながる内容を取り入れたからだと思われる。今後も基礎知識習得とともに「音遊び」に特化した授業展開を行いたい。

後期に関してはピアノレッスンの授業となり、教員ひとりが4～5名の学生を受け持つ。特定の学生としか関われなくはなるが、個々の特徴や性格を熟知でき、よりの確な指導ができたのは良かった。自由記述では、「指導が正確で弾けるようになった」「分からないところを分かりやすくじっくりと指導してくれた」「曲想や強弱などの提案をしてくれて、音楽への関心が深まった」等嬉しい意見がある一方、レッスン時間の配分の不平等や時間の短さ、また、「キーボードではなくすべて電子ピアノにしてほしい」「ピアノの調律など、メンテナンスをもう少ししっかりしてほしい」「ヘッドホンに不具合がある」「空調の不具合」など設備面改善についての意見も多かったので今後善処していきたい。

(2) ピアノ B

ピアノ B に関して、学生からの全体的評価の 3 グループの平均値は「 4 . 3 2 」だった。評価としては悪くはないのだが、1 年生後期のピアノの授業に比べ教員数が 1 コマ 5 名から 4 名に減ったこともあり、学生一人当たりのレッスン時間が減少し、満足する指導が受けられなかったと感じた学生が多かったようだ。時間配分についても、平等になるように時間やローテーションには教員各々で配慮をしているが、その日の学生の仕上がりで多少時間に誤差は出てしまう。これからも、学生ひとりひとりに寄り添った丁寧な指導を継続したい。

(3) 音楽表現の探究

全体評価では 1・2 組が 4 . 8 4、3・4 組が 4 . 4 7 という評価となり、平均値は 4 . 6 6 だった。2018 年度は全体評価が 4 . 0 8 なので比較すると 0 . 5 8 ポイント高い評価だった。昨年度と大きく違ったのは、学生たちが演奏をする実践中心だった合奏や合唱の授業を「こども達への指導法」に重きを置いたのがポイント上昇の要因と考えられる。今後も、こども達との関わりの中で、自然と音楽に触れられる環境づくりや、音楽活動を取り入れられる方法を学生に指導できるように研鑽を積みたい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 音楽

短期的目標	<ul style="list-style-type: none">・ 楽典の理解と読譜力の向上。・ こどものうたの特性を学びながら歌唱力の向上を図る。・ 音を五感で感じ、様々な手法で表現できる学生を育成する。・ グループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と、人との関わり方を学べる授業展開を行う。・ ピアノや楽典では、ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個別指導を取り入れ、より丁寧な指導を行う。
長期的目標	<ul style="list-style-type: none">・ 設備面の充実を図る。(電子ピアノ等)・ 学園内の自然環境を生かした、音を感じる空間づくり・ 音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。・ 音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

--	--

(2) ピアノ B

短期的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽典の理解と読譜力の向上。 ・ 拍子やリズム感を養う。 ・ ピアノ演奏、弾き歌い技術の向上。 ・ コードや和音を使って学生自身が歌の伴奏をできるような指導を行う。 ・ レッスン時間の確保。ひとり 18 分～20 分 ・ リトミックで活用できる楽曲や演奏法を取り入れた指導。
長期的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備面の充実を図る。(電子ピアノ等) ・ 音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・ 音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

(3) 音楽表現の探究

短期的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を楽しむことができる保育者を育成する。 ・ 音を五感で感じ、様々な手法で表現できる保育者を育成する。 ・ こどもが使う楽器の奏法を知り、演奏ができる。 ・ こども達に合奏の指導ができる。 ・ 正しい発生方法を知り、程よい声量で歌うことができる。 ・ こどもにふさわしい歌い方を指導ができる。
長期的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・ 音を使った遊びや活動が考えられる保育者を育成する。 ・ 音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

6 . その他

授業担当はしていないが、1 年生前期にピアノ A の授業を実施している。内容は音楽 (後期)、ピアノ B と同様にピアノレッスンを実施している。

また、毎年2月には入学予定者（初心者・未経験者）に対して、ピアノ演習特別講座を6日間（2コマ×6日）実施している。1回目では入学予定者全員に音楽・ピアノについての調査を実施し、受講が必要と感じられた学生に2回目からレッスンを実施。入学までにピアノに触れる機会を設けることで、ピアノに対する不安を取り除き、入学後も意欲をもって取り組めるようにすることが目的である。こちらは音楽教員全員で指導にあたっている。

7. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（音楽 ピアノB 音楽表現の探究）
- (2) 授業時配布プリント(一部)（音楽 ピアノB 音楽表現の探究）
- (3) 試験問題（音楽前期：筆記 後期：実技）(ピアノB 音楽表現の探究：実技)
- (4) 成績集計結果（音楽 ピアノB 音楽表現の探究）
- (5) 授業アンケート結果の考察